

(仮称)屋代スマートインターチェンジ地区協議会

設立趣意書

千曲市は、中央に千曲川が流れ、豊かな自然と古くから続く戸倉上山田温泉やあんずの里、日本遺産「月の都千曲」に認定された姨捨の棚田地域一帯など、豊富な地域資源や歴史・文化的遺産に恵まれるとともに、最先端のハイテク産業、精密加工業、食品産業など様々な産業が集積し、発展を続けています。

また、広域交通網として、鉄道では JR 北陸新幹線・JR 篠ノ井線・しなの鉄道が走り、高速道路では、上信越自動車道および長野自動車道それぞれに接し、これらが交差する更埴ジャンクションが存在する県内でも有数の交通の要衝であります。

一方、この地域周辺の工業団地には、高速道路までの輸送経路で主要渋滞区間があることに加え、令和 3 年に完成した大規模産業団地に新規進出する企業により、さらに高速道路へのアクセス需要は増すことが想定され、この恵まれた立地を活かすため速やかな交通の分散を図る必要があります。

このことから、本スマートインターチェンジの設置は、周辺地域と高速道路とのアクセス性・利便性等の向上により、物流の効率化による産業の促進をはじめ、地域住民の利便性向上や災害時における復旧活動の迅速化、救命救急医療への支援、新たな高速道路アクセスルートの確保による観光振興等に寄与するものと期待しております。

このため、国土交通省、長野県、長野県警察本部、東日本高速道路株式会社等関係機関と千曲市が連携して、スマートインターチェンジの設置に向けて必要な調整、検討を行い、開通後も継続して安全性、採算性、管理・運営形態、利用促進方策等を定期的にフォローアップし、必要に応じて見直す場として「(仮称)屋代スマートインターチェンジ地区協議会」を設立するものです。

令和 5 年 7 月 21 日

千曲市長 小 川 修 一